

2023年のアジア



混沌とする世界，底堅いアジア

やま だ のり ひこ
山田 紀彦

概 況

2023年は新型コロナウイルス感染症の拡大が収束する一方で，ロシア・ウクライナ戦争は膠着状態が続き，10月にイスラエルとハマスの軍事衝突が発生するなど，世界の混沌が深まった。そのなかでアジアは一部の国でさらなる権威主義化や政情不安がみられたものの，対外関係は安定し経済でも底堅さを示した。

政治は多くの国で選挙を中心に展開された。カンボジア，タイ，ティモール・レステ，シンガポールでは国政レベルで，香港とマレーシアでは地方レベルで選挙が行われた。モンゴル，台湾，韓国，インドネシア，バングラデシュ，インド，スリランカ，パキスタンは2024年に選挙を控え，政党の動きが活発となった。

一部の国では反汚職闘争や体制強化が続いた。ベトナムと中国では高級幹部の更迭が相次ぎ，それが現指導者の権力をいっそう際立たせた。モンゴルでも大々的な反汚職闘争が行われた。アフガニスタンではターリバーン政権が実効支配を強め治安が安定する一方で，女性の権利が制限されるなど人権状況が悪化した。

政情が安定しない国もあった。ネパールでは連立の組み換えが続き，ミャンマーでは内戦が激しさを増した。ASEANはミャンマー問題への関与を続けたが，具体的な進展はみられなかった。

世界経済の低迷は続き，アジア地域の経済も前年と比較し成長ペースが鈍化したものの，世界平均を上回る成長率となった。前年から上昇傾向にあったインフレは年後半には沈静化に向かい始めた。

対外関係は，米中対立の激化や台湾海峡問題が生じた過去数年と比較すると落ち着いていたが，引き続き米国を中心とする同盟ネットワークが強化された。二国間関係の改善もみられ，グローバルサウスと呼ばれる国々に注目が集まった。

国内政治

政治は前年同様，選挙，体制強化，反汚職闘争，政情不安の4つに大きく整理できる。4カ国では国政選挙が行われた。カンボジアでは最大野党を排除した国

民議会選挙で人民党が圧勝した。38年間首相の座にあったファン・センは息子に首相職を移譲したが、その後も自らへの権力集中を進めている。シンガポールでも野党系有力候補を排除した大統領選挙で与党候補が圧勝した。タイでは下院選挙で第1党となった前進党が排除され、民意に反して保守連立政権が成立した。ティモール・レステではシャナナ・グスマンが8年ぶりに首相に返り咲いた。

国政以外でも重要な選挙があった。香港では民主派が完全に排除された形で区議会選挙が行われ、投票率は史上最低となり中国式統治が進んだ。マレーシアで実施された6州の議会選挙では3州で与党が政権を維持し、一応の信任を得た。

他の多くの国では翌年の国政選挙を睨んだ政治が展開された。モンゴルでは憲法が改正され、与党に不利な選挙制度が成立した。台湾では総統・立法院選挙に向けて、民主進歩党、中国国民党、第3勢力の台湾民衆党による三つどもえの戦いが始まった。韓国でも与野党対立が続くなか第3勢力が登場した。インドネシアでは3組の大統領・副大統領候補ペアが決まった。一方バングラデシュの与党アワミ連盟は野党への攻撃を続け、インドでも与党インド人民党が自党に有利な状況を作り出した。パキスタンではムスリム連盟ナワーズ派のナワーズ・シャリーフ元首相が英国から4年ぶりに帰国し、下院選挙出馬の目途をつけた。スリランカでも各政党が選挙戦に向けて活発に動いたが、ラージャパクサー一族は鳴りを潜めた。なお、シンガポールでは翌年以降に実施予定の総選挙を前に、リー・シェンロン首相が2024年11月までに次世代に権力を移譲すると明言した。

一部の国では体制強化や反汚職闘争が続いた。ベトナムでは首相在任時の閣僚の汚職に関する監督責任を問われ、現職の国家主席が辞任する異例の事態となった。反汚職闘争が続くほどグエン・フー・チョン党書記長の権力が際立つが、同書記長の健康不安説は消えていない。中国でも党政軍幹部へ取り締まりが強化された。モンゴルでは政府が「反腐敗年」を宣言するなかで大規模な汚職が相次いだ。ミャンマー軍政内部でも汚職による人事再編があった。アフガニスタンのターリバーン政権は内部に不和を抱えながらも、最高指導者の権力が強化されている。マレーシアのアンワル首相は強引な政治手法が目立った。

政情不安が続いた国もある。ネパールでは前年末に成立した連立政権がわずか約2カ月で崩壊し、新たな連立政権が誕生した。しかし政党間の駆け引きは続いており、連立が再び崩壊する可能性がある。ミャンマーでは選挙実施の見込みも立たないなか内戦が激化し、軍政の劣勢も伝えられた。

経 済

国際通貨基金(IMF)の「世界経済見通し」(2024年4月)によると、2023年のアジアの新興市場国・発展途上国の経済成長率は5.6%となり、前年の4.5%を上回った。これはその他のどの地域よりも高い数値である。ロシア・ウクライナ戦争などに起因するインフレや、先進国の政策金利引き上げによる通貨下落圧力も、年後半には落ち着きを取り戻した。下振れリスクは解消されていないが、国際情勢の混沌が続くなかでアジア地域は底堅さをみせたといえる。

とはいえ一部の国では低迷傾向が続き、不安要素も解消されなかった。韓国経済は輸出不振と内需の低迷が響き、実質国内総生産(GDP)成長率は前年比1.4%増にとどまった。同様の理由により、ベトナム経済も前年実績を下回る5.05%の成長となった。台湾、タイ、マレーシアは民間消費が堅調だったものの、成長率はそれぞれ1.31%、1.9%、3.7%と低水準であった。台湾と韓国は世界的な半導体市況悪化の影響もうけた。インドネシアは輸出が落ち込んだものの民間消費に支えられ、5%台の成長を維持した。中国経済も政府目標の5%を超える成長となった。しかし不動産市況は改善せず、地方財政の悪化やデフレ傾向が強まった。韓国とベトナムでも不動産部門の不振が続いた。

外部支援に支えられた国もあった。バングラデシュはIMFの融資をうけながら6.0%という高い経済成長率を達成した。IMF融資によりパキスタンはデフォルトを回避し、スリランカは経済再建を図った。ラオスは中国の支援によって経済危機を乗り越えて脱したが、結果的に中国依存をいっそう深めた。

7月にインドが行った食料価格抑制を目的とした農作物の一部輸出禁止は、国際価格の上昇をもたらした。ティモール・レステでは年間を通じてコメ価格の高騰が続き、フィリピンでは政府が価格規制を実施した。インドネシアではコメ輸入が増大した一方、ベトナムは恩恵をうけて輸出が増加した。

2023年は電気自動車(EV)の普及や生産促進が目立った。米国のテスラはマレーシアに拠点を開設し、ベトナムのビンファストも海外展開を進めている。タイやラオスのEV市場も拡大した。中国は日本を抜いて世界最大の自動車輸出国となり、輸出台数522万台のうちEVが170万台を占めた。

対外関係

国際情勢が混沌とするなかで、アジア地域は米中対立や台湾海峡問題による緊張が高まった過去数年に比べて落ち着いていた。そのようななかで米国は日本、

韓国、フィリピンなどとの二国間だけでなく、多国間の安全保障協力を強化した。また防衛面における米国とインドの関係進展もみられた。

一方東南アジアでは、バイデン米大統領が9月のASEAN首脳会議を欠席したことが同地域の軽視とうけとめられ、波紋を呼んだ。バイデン政権の関心はあくまで中国にあり、対中けん制に協力的な国と選択的に関係を構築している。

二国間関係では多くの進展があった。日韓関係は大きく改善され首脳会談も行われた。偵察気球問題があったとはいえ米中首脳会談も実現した。また米国・ベトナム、日本・ベトナム、米国・インドネシア、日本・カンボジア関係は「包括的戦略的パートナーシップ」に、中国・シンガポール関係は「全方位で質の高い未来志向のパートナーシップ」にそれぞれ引き上げられた。対照的に朝鮮半島では南北関係の改善はみられず、北朝鮮はミサイル発射を繰り返した。

また各国はそれぞれの戦略に沿って大国との関係を深めた。ミャンマー軍政はロシアとの関係強化を続け中国とも接近した。北朝鮮もロシアと関係を深めた。中国は国際社会のなかで初めてターリバーンを事実上承認する立場をとった。バングラデシュも原発建設で中ロと連携を強化している。ネパールは米中印とのバランス外交に終始したが、首相が初の外遊先にインドを選び関係強化を図った。

2023年はグローバルサウスと呼ばれる国々が注目を集めた。特に中国は中東地域に対して積極的な外交を展開し、サウジアラビアとイランの国交回復を仲介したほか、パレスチナ問題でも仲介の意向を示した。インドはグローバルサウスの「代弁者」を自任し、「グローバルサウスの声サミット」を2回主催したが、農作物の一部輸出停止措置がアジア、アフリカ、中東諸国に負担を強いるなど、実が伴わない面もみられた。また、インドネシアは新たに6カ国が加わったBRICSには加盟せず、OECDに加盟申請を行うと公表した。

2024年の課題

2023年に新政権が誕生した国も、2024年に選挙が実施される国も、重要なのは政治の安定である。特に非民主的な国々では選挙結果をめぐる混乱の抑制が求められる。経済では各地の紛争激化に伴う世界的インフレや先進国の金融引き締め策が長期化する可能性もあり、下振れリスクは消えていない。中国経済の動向も気がかりである。対外関係では米国や中国に加えて、一部の国々はロシアやインドとの関係構築も課題となろう。ミャンマーでは内戦激化や自然災害による人道危機が深刻化しており、国際社会の支援が必要である。（地域研究センター）